

● eラーニング教材の蓄積を活用した大学教育・生涯学習における新しい学習形態に向けて（2） （ワークショップ）

オーガナイザ：吉根勝美（南山大学），山住富也（名古屋文理大学），
津森伸一（聖隷クリストファー大学），野崎浩成（愛知教育大学），
長谷川信（岐阜聖徳学園大学）

（背景・目的）

教育システム情報学会東海支部では、これまで4回にわたり、「e-Learning 教材の共有化における諸課題の解決に向けて」、「教材データベース構築における数値情報と文字情報の整合性について」、「データ分析に基づいたeラーニング開発に向けて」、「eラーニング教材の蓄積を活用した大学教育・生涯学習における新しい学習形態に向けて」と題し、eラーニング教材に関わるワークショップを企画し、全国大会のプレカンファレンスとして実施してまいりました。

この2～3年で、“タブレット端末”を利用した教育や、“アクティブラーニング”、“反転授業”、“MOOC”といった新しい形態の学習方法が話題にのぼっています。これまで長年蓄積されてきたeラーニング教材やさまざまな教育データは、こうした新しい形態の学習にも活用すべきです。同世代の半数近くが大学へ進学する時代を迎える中、大学教育や生涯学習のあり方を再構築するにあたり、新しい学習形態の導入は当然議論の対象となります。

（内容）

東海支部では、支部活動の一つである“eラーニング勉強会”を通して、会員各自の研究成果をeラーニング教材として共同利用するという課題に取り組んでおります。今回のプレカンファレンスは、勉強会の報告を兼ねて、前回に引き続き「eラーニング教材の蓄積を活用した大学教育・生涯学習における新しい学習形態に向けて」をテーマにして、研究発表会形式で報告と討論を行います。申込み時点では、以下の報告を予定しています。

「現実データによる教材整備—もうひとつの統計教育のために」

「iPadとe-Learningを利用した反転授業の試み」

「基礎物理学の反転授業の構想」

「テンプレートを用いた卒業論文執筆指導—moodleを活用したScaffolding—」

「学生の学習意識と学習達成度評価」